



るりるりボランティア記

第2号

サワディーカー！るりです。私の住むバンコクでは毎日40度前後まで気温が上がり、夏本番を迎えています。日本でもっとも暑い月は8月ですが、タイでもっとも暑い月は4月なのです。暑さはもちろん、私が夏を感じるのは果物を口にした瞬間。毎日飲むココナッツジュースの甘みが日に日に増すことを感じます。日中の暑さは日本の8月以上ですが、美味しい果物を味わいたい方にはこの時期タイ旅行もいいかもしれません。

さて今回は、バンコクにあるスラム街を支援している NGO を訪問した様子と、タイ人が1年でもっとも楽しみにしているというお祭り「ソンクラン」についてレポートします。

4月後半からはいよいよ活動がスタートするので、次号ではその様子も少しお伝えできればと思っています。

NGO 訪問

私は JOCV の同期隊員そしてボランティア調整員一人の計7人でバンコクにあるスラム街を支援している NGO 「シーカーアジア財団」にお邪魔して、子供達と遊んできました。この日はタイの高齢者の日直前で子供たちが普段お世話になっている高齢者に長寿と健康を願って水を掛ける儀式をするため各家庭を訪問するというので、私たちも一緒に付いていくことにしました。

水にはマリーゴールドが浮かべられていてとってもいい香りがします。子供たちの家に向かう道中、廃材で建てられたような家も多く、またなんとも言えない匂いが立ち込めていました。しかし、いったん家に着くと生まれたての赤ちゃんが眠っていたり、鉢植えなどが置かれてとても綺麗な家もありほっとしました。何より、水を掛けている子供たちも水を掛けられている高齢者もよく笑っていたのが印象的でした。



子供たちがスタッフに水をかけてお清めをしている様子

私たち JOCV 隊員がシーカー・アジア財団と出会ったのはタイに来て間もなく実施された JICA タイ事務所からのオリエンテーションの時。プログラムとしてスラム見学があり、町の案内やスラム街に関する説明をしてくださったのがスラムに住む子供たちの教育支援を行なっているシーカー・アジア財団のスタッフでした。

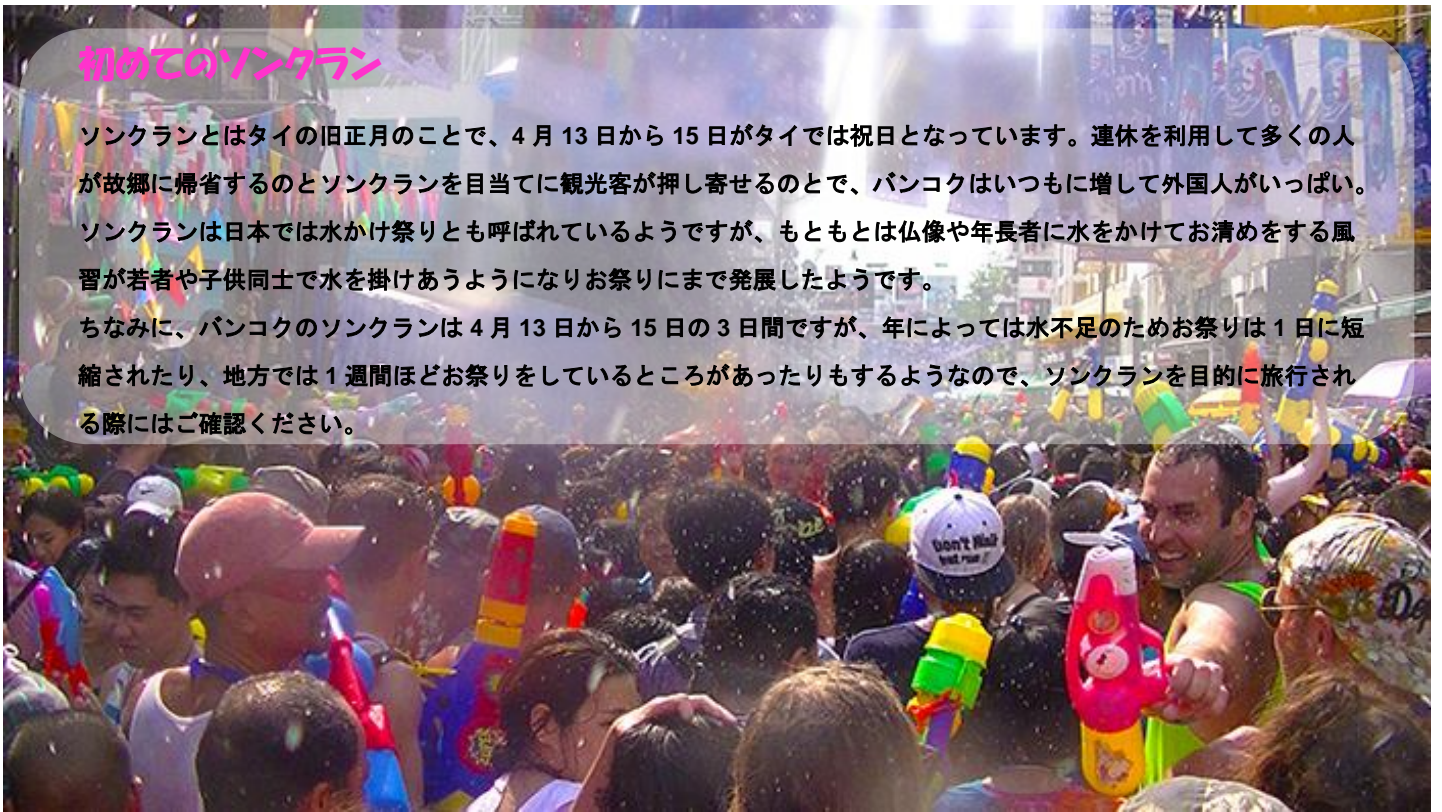
バンコクの中心地から車で20分ほどのところに1万人以上が住むというスラム街があります。タイ政府は「人口密集コミュニティ」と呼んでいるとのことですが、犬がたくさん歩いていたり子供が裸足で歩いている光景は私たちがイメージするスラムそのものです。

「もしスラム出身だとバレれば一人も友達がなくなったりするし、出身地がスラム街ということが理由で就職することも難しい」との NGO スタッフからの説明になんとも言えない気持ちになりました。

初めてのソンクラン

ソンクランとはタイの旧正月のことで、4月13日から15日がタイでは祝日となっています。連休を利用して多くの人が故郷に帰省するのとソンクランを目当てに観光客が押し寄せるので、バンコクはいつもに増して外国人がいっぱい。ソンクランは日本では水かけ祭りとも呼ばれているようですが、もともとは仏像や年長者に水をかけてお清めをする風習が若者や子供同士で水を掛けあうようになりお祭りにまで発展したようです。

ちなみに、バンコクのソンクランは4月13日から15日の3日間ですが、年によっては水不足のためお祭りは1日に短縮されたり、地方では1週間ほどお祭りをしているところがあったりもするので、ソンクランを目的に旅行される際にはご確認ください。



ソンクランの風景

ソンクランが近づいてきたある日、ショッピングモールには「ご自由に水をおかけください」と書かれた仏像とジャスミンが浮かべられた水が置かれていました。せっかくの機会なので、私も仏像に水をかけることにしました。しっかりと水にジャスミンの香りがうつっており、少し濡れた手や服からの香りでしばらくの間癒されました。

この時期になるとセールが始まるようで、アロハシャツやビーチサンダル・水鉄砲にゴーグルなどソンクランを楽しむためのグッズがショッピングモールやコンビニにも並んでいました。今年の私の服装は写真の通り。全てタイに来てから購入しましたが、全部合わせても600パーツ（日本円で約2,000円）程度。全身びしょびしょに濡れてしまうので、服の下には水着を着るのがお勧めです。



ソンクラン祭りの帰り道、全身びしょ濡れの私と同期隊員（左から2番目が私）

それから、最近のソンクランは激しくなっているようで、常温の水だけでなく氷で冷やされた水をかけられたりパウダーを塗られたり中にはシャンプーされている人までいたので、汚れてもいい服装が必須です。私もソンクラン祭りの中心地に行こうと滞在しているドミトリーを出て10分もしない内に全身びしょ濡れなのはもちろん、髪の毛や顔にもパウダーを塗られて大変なことに…。歩いているときだけではなく、エアコンがないバスに乗っているときには空いている窓からも水をかけられるほどでした。

楽しいのですが、朝から夜までずっとしているお祭りなので、体力の消耗もなかなかのものでした。

次号もお楽しみに！